

オープニングレセプション

日時: 10月1日(水) 18:00-

会場: 東京工業大学百年記念館 1F 展示室

展示会

会期: 10月2日(木) - 10月21日(火) 会期中無休/入場無料

開館時間: 10:00-17:00 ※6、8、16日のみ 20:30まで延長

会場: 東京工業大学百年記念館 1F 展示室

シンポジウム

「日常の詩学」について

基調講演: 坂本一成 鼎談: 坂本一成、八束はじめ、坂牛卓 司会: 奥山信一

日時: 10月8日(水) 18:00-20:30 (開場/17:30)

会場: 東京工業大学百年記念館 3F フェライト記念会議室

定員: 約100名/先着順/入場無料

ギャラリートーク

日時: 10月6日(月)、16日(木) いずれも 18:00 - 20:30

会場: 東京工業大学百年記念館 1F 展示室/参加無料

司会: 塚本由晴 (6日) 藤岡洋保 (16日)

会場アクセス

東京工業大学大岡山キャンパス

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東急目黒線・大井町線大岡山駅下車 徒歩1分

問い合わせ

TEL: 03-5734-3340

FAX: 03-5734-3348

URL: <http://www.libra.titech.ac.jp/cent/>

主催: 東京工業大学百年記念館

共催: 大学院理工学研究科建築学専攻

後援: 大田区教育委員会、ギャラリー・間、(社)蔵前工業会、(株)新建築社、
TIT 建築設計教育研究会、冬夏会、(社)東京建築士会、TOTO、ドイツ工作連盟、
(社)日本建築家協会、(社)日本建築学会、目黒区教育委員会 (50音順)

坂本一成 建築展「日常の詩学」実行委員会=藤岡洋保(委員長) 小河利行 安田幸一 奥山信一

塚本由晴 安森亮雄 亀井宏行(百年記念館副館長) 道家連将 遠藤康一 阿兒雄之 富田健市

堀松恵美子 鶴飼清 高田吉雄 展示協力=建築学専攻建築デザインコース・人間環境システム専攻:

長谷川千夏 高井利洋 /計算工学専攻亀井研究室 スタッフ=辻廣誉子 中西裕美 弘島礼奈

協力=坂本一成研究室

坂本一成 建築展 「日常の詩学」

Kazunari Sakamoto Architecture exhibition

Poetics in the ordinary

ごあいさつ

東京工業大学大学院の建築学専攻、工学部の建築学科には100年以上の歴史があります。前身は東京高等工業学校建築科で1902(明治35)年12月に創設されました。その間に優れた建築家、技術者、研究者を輩出してきました。教育においては、理論に支えられた建築設計を目指し、見た目の良さもさることながら、そのデザインの根拠を考えようとすることや、建築のよりよいあり方を追求することを重視しています。それは、形と言説の関係を考えることを大事にしているといえるでしょう。

今回の「坂本一成 建築展 『日常の詩学』」では、この学風を示す一例として、建築学専攻教授坂本一成の作品を展示します。坂本一成は1966(昭和41)年に本学建築学科を卒業し、同大学院、武蔵野美術大学助教授を経て、1983(昭和58)年から本学で研究・教育・設計活動を行ってきました。日本建築学会賞(作品)や村野藤吾賞の受賞、そしてミュンヘンの集合住宅の国際コンペ当選などに示されるように、その作品や思想は、国内だけではなく、海外でも高い評価を得ています。坂本は、建築とは何か、人間と建築の関係はどうあるべきかを考えつつ、おもに住宅作品を通してそれを表現してきました。そのデザインは、日常生活の中で人々があたりまえと知っていることを検証し直しながら建築の「より自由なあり方」を模索するという姿勢で貫かれています。

この展覧会では、その軌跡を17作品の写真、模型、図面などで示しています。展示写真の前に立つと、あたかも実際の建物と向き合っているように感じいただけるものと思います。

現在の建築界では、情報技術や構造学の進歩にともない、これまで見たこともなかったような、自由で、洗練されたデザインができるようになりました。しかし、その一方で、設計者から見れば、自由度があまりに大きくなったために、何を根拠に設計すればいいのか逆にわかりにくくなっているという問題があります。「いい建築とは何か」があらためて問われていることです。この展覧会が、そのような状況を考え直すひとつのきっかけになれば幸いと存じます。

東京工業大学百年記念館館長

大倉一郎

開催趣旨

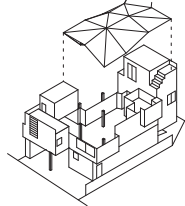
坂本一成は、主に住宅設計を通して、建築とは何なのか、人間と建築の関係はどうかあるべきなのかを考え続けてきた建築家です。その作風は、初期の「閉じた箱」から、より開かれた「領域」をつくることへの関心へ、さらには建築の構成要素のより自由な関係性へと変わってきましたが、その底流にあったテーマは、制度化された日常を再考しつつ組み替えながら、建築の「より自由なあり方」を模索することに、坂本の言葉で言いかえれば、「日常の詩学」にありました。

その主要住宅作品を中心にした展覧会「坂本一成 住宅：日常の詩学」展が、2004年秋にドイツ・ミュンヘンを皮切りにデンマーク、ノルウェー、エストニア、チェコを巡回し、ミュンヘンで10万人以上、ほかの会場でもそれぞれ数千人を集めるなど、好評を博しました。今回の「坂本一成 建築展『日常の詩学』」は、その展覧会の帰国展であるとともに、この巡回展を通じてヨーロッパの文化人から得た坂本の作品に対する評価を日本側がどう受け止めるかを考える機会を提供するものでもあります。それは、坂本一成のこれまでの歩みを振り返りながら、90年代以後、「建築」という概念が拡散し、従来の建築観が相対化されていく状況の中で、これからの建築について模索する試みのひとつにもなると思われます。

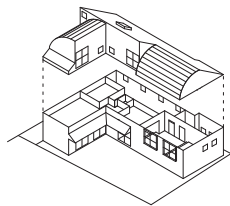
このヨーロッパの巡回展がスタートしたあとに、坂本は、ミュンヘンの集合住宅の国際コンペに入選するとともに、「東京工業大学Tokyo Tech Front (仮称)」を設計し(日建設計と協同、現在建設中)、また熊本の「宇土市立網津小学校」プロポーザルの実施設計者にも選ばれていますので、それらについてもあわせて展示します。

会期中にはシンポジウムを1回、ギャラリートークを2回行う予定です。シンポジウムでは、坂本のモノのつくりかたやその背景にある建築観を解説しながら、現代日本の建築界の状況についても議論が交わされる予定です。またギャラリートークは、坂本本人が自作を解説するとともに、聴衆からの質問にできるだけ答えようというものです。

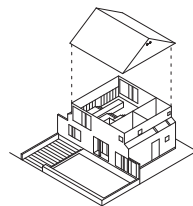
実行委員長 大学院理工学研究科教授 藤岡洋保



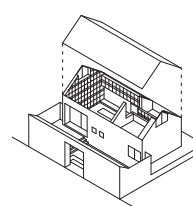
11 House F
House F, 1988



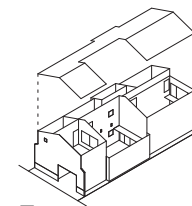
10 祖師谷の家
House in Soshigaya, 1981



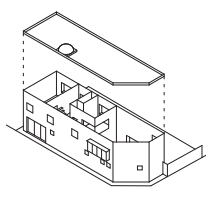
8 今宿の家
House in Imajuku, 1978



6 南湖の家
House in Nago, 1978



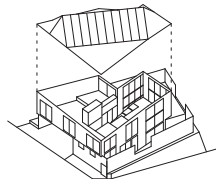
5 代田の町家
Machiya in Daita, 1976



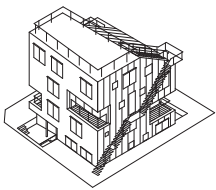
4 雲野流山
Kumono-Nagareyama House, 1973



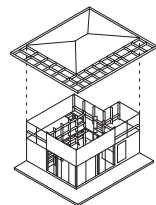
12 コモンシティ星田
Common City Hoshida, 1991-1992



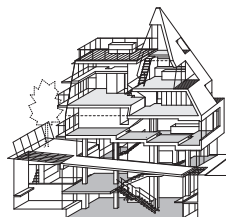
15 House SA
House SA, 1999



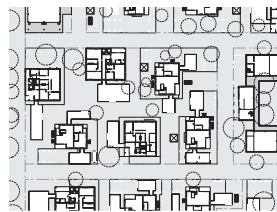
18 Egota House A
Egota House A, 2004



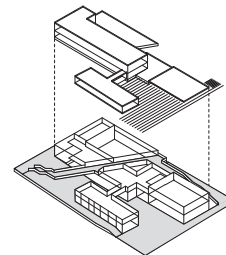
16 Hut T
Hut T, 2001



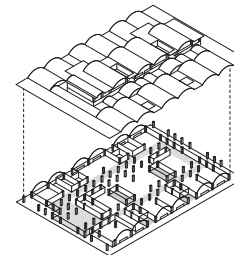
19 Quico 神宮前
Quico, 2006



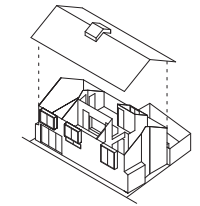
20 ドイツ工作連盟
ジードルンク・ヴィーゼンフェルト, ミュンヘン
Werkbundsiedlung Wiesefeld, München, 2006



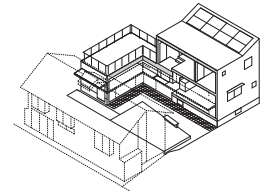
22 東京工業大学
Tokyo Tech Front (仮称) 計画
Tokyo Tech Front -Project-, 2007



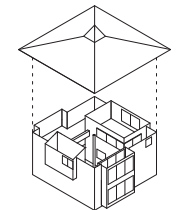
23 宇土市立網津小学校計画
Amitsu Elementary School -Project-, 2008



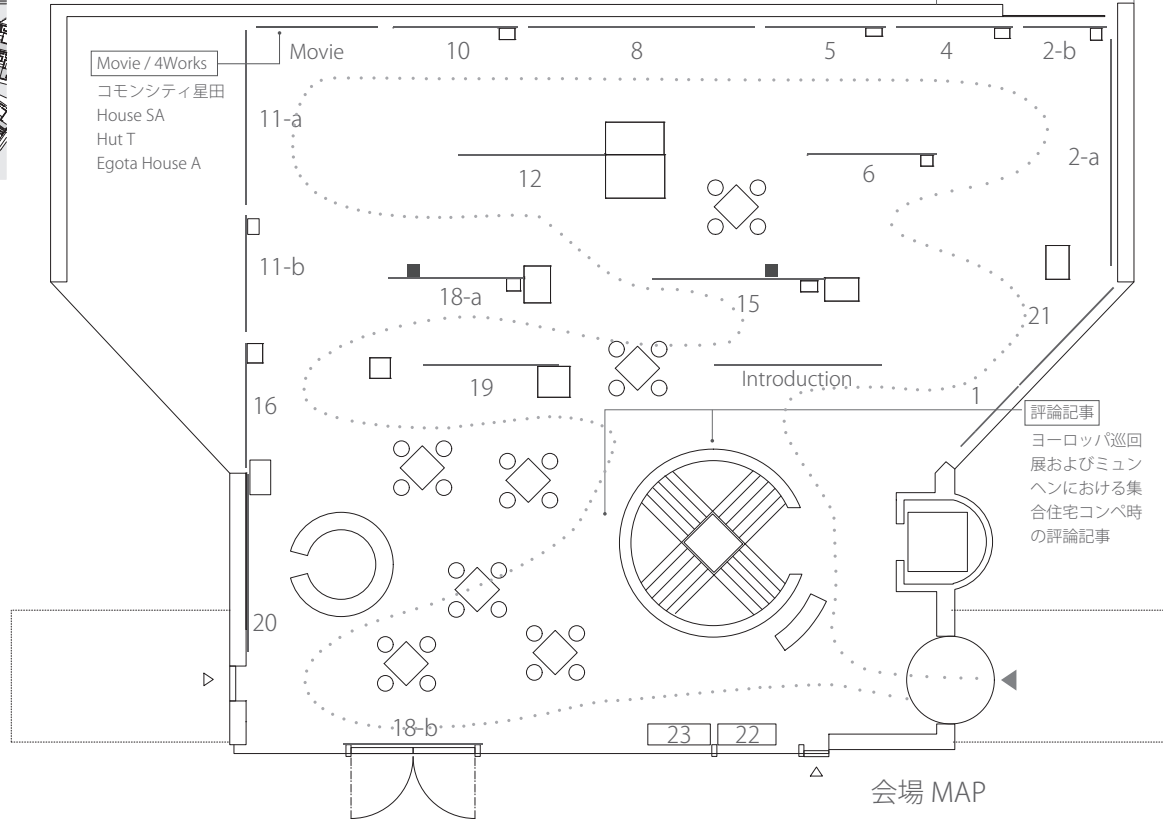
2 水無瀬の町家
Machiya in Minase, 1970



21 水無瀬の別棟
Minase Annex, 2008



1 散田の家
House in Sanda, 1969



OTHER WORKS

- 3 登戸の家
House in Nobuto, 1971
- 7 坂田山附の家
House in Sakatayamatsuke, 1978
- 9 散田の共同住宅
Common House in Sanda, 1980
- 13 熊本市営託麻団地
Kumamoto Takuma Housing, 1992-1994
- 14 幕張ベイタウン・パティオス4番街
Housing in Makuhari Bay Town, 1995
- 17 南堀江 COCUE
Minamihorie COCUE, 2003